

「武田信玄」 人形衣裳 修理前と修理後

「八戸三社大祭の山車行事人形衣裳修理業務報告書 武田信玄人形衣裳」
女子美術大学染織文化資源研究所（令和3年10月）より

① 陣羽織^{じんばおり}

⑥ 衿^{えり}

② 袖^{そで}

⑥ 帯

④ 袴^{はかま}

⑤ 腰巻^{こしまき}

③ 袖襦袢^{そでじゅばん}



①陣羽織

赤ウール地に破れ、切付の武田菱のラシャにも欠損。^{きりつけ}玉縁（パイピング）が本体から外れ、裏地の緞子地も^{たけだ}緯糸が^{びし}全体的に外れていた。^{けっ}玉縁（パイピング）が本体から外れ、裏地の緞子地も^{どん}緯糸が^す全体的に外れていた。



②袖

銀欄地の経糸が外れたため広範囲に平銀糸がずれており、生地も弱くなっていた。
袖口のベルベット、内側の羽二重、木綿布が欠損し、内側の綿が飛び出していた。



③袖襦袢

袖の内側に着用するため大きな損傷はなかったが、シミなど汚れが付着していた。



④袴

腰巻をつけているため、銀襷部分の大きな破れや欠損は見られないものの、袴の裾部分は大半の生地が欠損し、芯地に使われていた和紙が露出している状態だった。



⑤腰巻

比較的状态がよく、表裏ともに大きな破れや欠損などはないが、裾の裏側の羽二重すそが劣化していたり、使用の上で軽微な手直しをした形跡があった。



⑥帯、衿

帯は生地^{わた}の欠損が激しく、棉が飛び出していた。

平らな棉を羽二重で包んでいる衿^{えり}は、縫製の糸がすべて外れていた。



○肉布団

人形に厚みやふくらみを持たせるために使用している肉布団は、棉がよれており、ふくらみもなくなっていた。



※使用の際、紐取り付け部分から生地が破損しないよう、新たに木綿生地で袋を製作し、その中に肉布団を入れた。